

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6年 4月 1日

静岡県知事 川勝 平太 殿

提出者

住 所 静岡県御前崎市合戸2125-1

氏 名 オルガノサイエンス株式会社

代表取締役社長 岡本 一男

電話番号 0537-85-6200

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	オルガノサイエンス株式会社
事業場の所在地	静岡県御前崎市合戸2125-1
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	E: 製造業 (16: 化学工業)																		
② 事業の規模	製造品出荷額等 1,389,639,124円/年																		
③ 従業員数	21名																		
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<table border="0"> <tr> <td>発生源</td> <td>特定産業廃棄物の種類</td> <td>処理・処分</td> </tr> <tr> <td>反応液</td> <td>濃縮工程→引火性廃油→ 渣)→リサイクル</td> <td>焼却施設→燃殻(残</td> </tr> <tr> <td>反応液</td> <td>分液工程→腐食性廃酸→ 渣)→埋立処分</td> <td>焼却施設→燃殻(残</td> </tr> <tr> <td>反応液</td> <td>濃縮工程→引火性廃油→ 渣)→埋立処分</td> <td>焼却施設→燃殻(残</td> </tr> <tr> <td>反応液</td> <td>分液工程→引火性廃油(有害)→ 残渣)→埋立処分</td> <td>焼却施設→燃殻</td> </tr> <tr> <td>反応液</td> <td>濃縮工程→引火性廃油→ →リサイクル</td> <td>エマルジョン燃料化</td> </tr> </table>	発生源	特定産業廃棄物の種類	処理・処分	反応液	濃縮工程→引火性廃油→ 渣)→リサイクル	焼却施設→燃殻(残	反応液	分液工程→腐食性廃酸→ 渣)→埋立処分	焼却施設→燃殻(残	反応液	濃縮工程→引火性廃油→ 渣)→埋立処分	焼却施設→燃殻(残	反応液	分液工程→引火性廃油(有害)→ 残渣)→埋立処分	焼却施設→燃殻	反応液	濃縮工程→引火性廃油→ →リサイクル	エマルジョン燃料化
発生源	特定産業廃棄物の種類	処理・処分																	
反応液	濃縮工程→引火性廃油→ 渣)→リサイクル	焼却施設→燃殻(残																	
反応液	分液工程→腐食性廃酸→ 渣)→埋立処分	焼却施設→燃殻(残																	
反応液	濃縮工程→引火性廃油→ 渣)→埋立処分	焼却施設→燃殻(残																	
反応液	分液工程→引火性廃油(有害)→ 残渣)→埋立処分	焼却施設→燃殻																	
反応液	濃縮工程→引火性廃油→ →リサイクル	エマルジョン燃料化																	

(日本産業規格 A列4番)

## 特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括責任者 所属：本社工場 氏名：主任 井原 真一

廃棄物担当者 所属：本社工場 氏名：主任 井原 真一

&lt;統括責任者の役割&gt;

○産業廃棄物管理状況の把握と改善策の検討

&lt;廃棄物担当者の役割&gt;

○産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の交付・管理

○委託契約の締結

○監督官庁への各種報告

○社員に対する教育・啓発

○処理業者・再生利用業者の調査選定及び管理

○その他関係する事項

## 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	排 出 量	123.84 t	19.05 t
	（これまでに実施した取組） 可能な限りリサイクル使用、及び使用量削減。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	排 出 量	250 t	70 t
	（今後実施する予定の取組） 変更可能な品、及び新規品において検討実験を行い更なる削減をする。		

## 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） タンク：引火性廃油と引火性廃油（有害）を作業場別に分別 ドラム：表記による分別
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 「①現状」を継続

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 自ら再生利用は行っていない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら再生利用を行う計画はない。		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
（これまでに実施した取組） 自ら熱回収は行っていない。			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
（今後実施する予定の取組） 今後も熱回収を行う計画はない。			

## (第4面)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	自ら埋立処分を行なった特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 自ら埋立処分は行っていない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 今後も自ら埋立処分を行う計画はない。		

## 特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	全処理委託量	123.84 t	19.050 t
	優良認定処理業者への処理委託量	123.84 t	19.050 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	95.08 t	19.050 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 可能な限りリサイクル使用、及び使用量削減を行った。		

②計画	<b>【目標】</b>		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	引火性廃油（有害）
	全 処 理 委 託 量	250 t	70 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	250 t	70 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	150 t	70 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
<p>（今後実施する予定の取組）          変更可能な品、及び新規品において検討実験を行い、更なる使用量を削減する。</p>			
電子情報処理組織の使用 に関する事項	<b>【前年度（令和 5年度）実績】</b>		
	特別管理産業廃棄物 排 出 量 <small>（ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。）</small>	142.890281 t	
	<p>（今後実施する予定の取組等）          マニフェスト対応の廃棄物は、全て「電子マニフェスト」で対応していく。</p>		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。